

医師は語る



医療法人社団
健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

風邪の治療とガンの治療は同じである

風邪とガンでは全く病気は異なります。罹患（りかん）している期間をみて、風邪の場合は数日から長くても一週間です。それに対してガンと診断された場合、治療するまでに一年から数年はかかります。ときには治ることなく、やむを得ずこの世を去る場合もあります。ですから風邪とガンは全く異なる病気です。

しかし風邪もガンも、身体で起こっている治療への反応は全く同じなのです。風邪は、大抵風邪のウイルスに感染したからです。そして風邪のウイルスに対する抵抗力がついてくると、だんだんと治療へ向かいます。この間に処方される鎮咳剤、解熱剤、鎮痛剤は風邪の諸症状を緩和する薬であり、直に風邪を治療する薬ではありません。でも薬を使うと風邪の治療を早めることができます。風邪を治療できるのは、自身の自己防御力（病気を防ぐ力）だけです。もし自己防御力を持たないなら

ば、風邪を治すことは不可能です。

一方ガンの場合も全く同じことが言えます。ガンを治せるのは、自身の自己防御力だけです。手術や抗がん剤、放射線治療はとも大切な治療です。しかし風邪の場合と同様、それらはガンの治療を早めるために使うものです。つまり手術をしてガンの治療を早める、抗がん剤を使ってガンの治療を早める、放射線治療でガンの治療を早めるのです。それならば、とよくこのような質問を受けます。「それらの治療を受けなくても自己防御力を回復すれば治療できますか？」私はそう思います。ただその場合は自己防御力を回復した後、それを維持できなければなりません。それと自己防御力の回復が遅く、合格ラインに達していない間は、当然ですがガンは進行する可能性があります。さらにガンの広がる勢いが大きいと、自己防御力の回復は妨げられます。ですからできるだけ速やかに自己防御力を回復させなければなりません。つまりガンの勢いを止め、成長する機会を与えてはなりません。それをするには覚悟が必要です。

自己防御力の回復に必要なことは何か

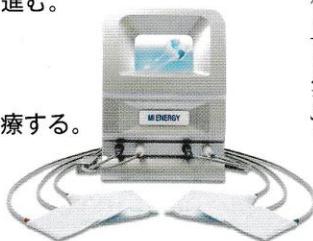
病気を治す原点は、何千年経っても変わりません。「病気を治し、健

康になりたい！」という気持ちです。その気持ちなしに病気を治すことはできません。また不安な気持ちと解消しなければなりません。ガンともなれば多くの患者さんがとる行動は、不安感を払拭するためか、インターネットや書籍で自分のガンについて勉強することです。しかし大抵はもっと不安な気持ちになるようです。もう一つ困った問題があります。ガンの成長を気にし過ぎて、ご飯をほとんど食べないことです。それによってガンの成長にブレーキがかかることもあります。ガンを打ち負かす体力が育たず（自己防御力が回復せず）、結局治せないことも多いです。自己防御力を回復するためには、まずは①気持ちを安定させること、②そのために勉強しないこと、③食べれる人は、ちゃんと食べることを、④動ける人は、外へ出て深呼吸を取り入れて散歩すること、それが大事です。そして違法性がなければ、また有害でなければ如何なる治療をもトライしてみたい。ポイントとは全身の血液循環を良好にした上で、「細胞の新陳代謝を良くすること、免疫バランスを良くすること、炎症を鎮静化すること」の三点です。私のライフワークの一つは還元電子治療です。これは自己防御力を回復するためだけに開発されたものではないです。直に病気を治療するものではないです。健康な人は、健康で

あり続けるために行って下さい。また病気の人は、自己防御力の回復から病気の治療を目指すために行ってください。繰り返しますが、還元電子治療は薬ではありませんので、病気の治療には使えません。しかし病気の治療には必ず自己防御力が必要です。そして自己防御力の回復を最もスピーディーに行える治療の一つが、還元電子治療と言えます。

《病気を克服するためのところ》

- ①油断しないところ
病気を甘く見てはいけません。
- ②平常のころ
病気を不安に思っていない。
- ③不動のころ
病気の治療法を決め、信じて進む。
- ④なにくそ！精神（ころ）
病気と闘う。
- ⑤粘り強いころ
病気を治すまで、とことん治療する。



還元電子治療器

【堀口裕先生プロフィール】北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院、現在は理事長兼院長を務める。長年に亘り、空気中のネガティブイオンに関する生理的作用を研究、独自に開発された細胞内検査と還元電子療法を駆使した、根元（ねもと）医療という新しい医療を推進し、国内外で活躍している。